



『行ってらっしゃい!!』地域で見守る登校指導



8月20日、21日の2日間、本町の三島章さん、千葉信行さんのボランティアお二人に2学期始業に伴う登校時の見守り活動として、通学路内2か所の横断歩道において、黄色い横断旗を掲げての登校指導を頂きました。

「おはようございます。」

大きな荷物を抱えた子どもたちからの

元気な挨拶に、「今日から2学期だね!」、「いってらっしゃい」等と優しく声を掛けながら、通勤等車両からの安全を確保頂きました。

日頃からの町民皆様からのお声掛けは、「挨拶の輪」となり、子どもたちが安心して登下校等する際の見守りにも繋がります。～引き続きのご協力を宜しくお願い致します～



6月13日に地域ボランティアのご協力により植栽した小学校花壇の花々は、4回の草取りにより、今活き活きと色鮮やかに校舎を彩り、特に、職員室前の「コキア(ほうき草)」は、背丈1m程にもなる成長で花壇を賑わせています。

涼を欲した今年の猛暑は、乾燥地が原産地である「コキア」にとっては、最適な条件だったのかもしれません。



10月下旬の学芸会の頃には、紅葉により、花壇が真っ赤に染めあがるさまが今から楽しみです。

青少協だより

第189号

令和7年9月1日 発行
愛別町青少年育成協議会



～『子育て研修会』開催～

10月17日(金) 受付 18時30分～
研修 18時45分～(約1時間)

愛別町幼児センター(遊戯室)

【内容】「声のふしぎ ふうせんでんわと
くるくるおどるへびを作ろう」

【講師】NPO 法人 butukura 中司 展人 氏

※9月30日までに教育委員会(6-5115)へ
事前申込みをお願いします。(託児あり)

家庭・学校・地域社会が一体となって、子育てに取り組む機運高揚を目的として今年度は、「幼児センター父母と職員の会」と「愛別町青少年育成協議会」との共催による子育て研修会を全町民対象に開催致します。

製作遊びを通してのワクワク・ドキドキ感等の創造力や集う人々とのコミュニケーション等、老若男女を問わず同じひと時を楽しんでみませんか?

最近良く耳にする「うちどく」実は
ずいぶん前から推奨されていたようでも、私が耳にし始めたのは最近でした。各地の図書館案内を見ても、と、家庭読書の略で、「家族ふれあい読書」と、説明されています。
ルールは決まっています。

(育成環境部会) 上野 理恵子
〔愛別町読み聞かせ会・
公運審・社会教育委員〕

【会員寄稿】 「うちどく!」

・家族で書店や図書館へ行って本を選んでみましょう。
・家族で同じ本を読み、感想を話し合ってみましょう。
・一日の中でテレビ、パソコン、タブレット等をみない使わない時間を作って、本を読んでみましょう。
・おうちの生活スタイルにあったやり方で自由に読書をしてください。
「うちどく」で、家族の絆を深めましょう。
などなど書かれており、絵本の読み聞かせも「うちどく」としている記事もありました。
と、いうことは!!

(裏面に続く)



「うちどく」と言う略語があることを知らなかった頃から「うちどく」ってやっていたかも!! というご家庭は多いのではないでしようか。

息子が高校生の時、「母ちゃんこれ面白かったわー、読む?」と言って、自分で買ってきた文庫小説を貸してくれたことがあります。

これは「うちどく」?

息子がそう言うて

貸してくれるのが

嬉しくて、読みたい

のはやまやまなのに、

忙しくてゆつくり読む時間がない、

そんな時は冒頭だけ読んで「この後どうなったの?」と聞いたこともありまし



これも「うちどく」!!

子どもが大きくなって会話の時間が減った頃に、本が共通の話題のアイテムになるのって良いなと思ったのを思い出しました。

みなさんもぜひ、お子さんが学校から借りてきた本や、朝読書用に購入した本などなど、「それ、面白いの?」と、聞いてみてください!

それは紛れもなく「うちどく!」

良い時間が過ごせるかもしれません



【会員寄稿】

いつまでも「こどもまんなか愛」の町で…

(家庭部会) 高山 徹

〔愛別町連携教育推進委員会
愛別中学校教頭〕

愛別町に来て、一年と3ヶ月が経ちました。特に6月は様々な出来事があり、激動の1ヶ月となりました。そんな中、愛別町の「愛」を感じた行事を2つ紹介します。

その一つは、愛別小学校運動会です。支援学級に通うわが子にとって、毎年の「運動会」、「学習発表会」は鬼門となつて

おり、体育教師であつた私が辛くなることとが幾度もありました。これまで息子が参加した運動会のダンス(お遊戯)種目は、一曲を通して参加することができず、徒競走やリレーでは、担任の先生や上級生と手をつないでゴールすることが精一杯でした。(もちろん、そこに至るまでに手厚いサポートをいただいています。)

そして今年の運動会。ダンス種目は当初、端っこの方で踊っていたところ、最終的には全体の動きに参加することがで

きました。そこには、陰ながらさりげなく誘導する先生の姿がありました。同じ立場でありながらも小学校の先生方に「あっぱれ」という気持ちで観望しました。

また、リレー種目ではバトンを受けて、人生で初めて自らスタートを切る姿を見るのができました(保育園時代は、バトンを受けてもその場でクルクルと回

っていました)。その後は途中から校門めがけて脱走することになりました(一位じゃないとダメなのか。親に似てしまったのか:)が、フォローが素晴らしかったのです。なんと、さりげなく後ろから同級生の子がサポートして走つて

おり、息子がほうり投げたバトンを見事キャッチ、何事もなかったようにその後走ってくれたのです。



息子のような児童がどのように対応するのかを様々なパターンで予測し、運動会を企画運営している先生方の力を感じました。

親として子どもを見てあげる場合、ついつい誰かと比べたがるものです。一つの基準としてそれは「あり」なのかもしれないが、そこを突き詰めてしまうと、

子どもにとって重荷になってしまうことがあります。わが家の長男は、そもそも同級生と比べるレベルになく、比較対象



は「昨年、もしくは一昨年の自分」です。もしかすると、息子だけではなく、全ての子どもたちにも当てはまるのかもしれない。私自身、体育や部活動を指導していた際にも、他の学校や他人と比較する前に、まずは「自分」との比較を考えさせました。その上で結果は後から付いてくると考えます。そういう見方をしていると、思わぬ好成绩だったとき、本当に嬉しいものです。

二つ目は幼児センターの運動会です。幼児センターの運動会は、子どもたちの健康状態を考慮し、第一部と第二部に分けて実施していました。子どもたちについては、通常の時間よりも短く集中して参加できる点があり、さらに先生たちも人数がほぼ半数になることで、手厚く対応できる配慮がされていました。今、求められているウェルビーイングの考えを重視した取組となっています。

このような「こどもまんなか愛」が愛別町のいたるところで見られます。子どもたちと生活する中で、

「なぜ自分だけがこんなに苦しい思いをしなきゃならないの?」と感じる瞬間があるかもしれません。

大人の皆さんも過去には多くの「愛」を受けてきたのだと思います。「全ては子どものため」の精神で愛別の子どもたちを育てていきたいものです。

